富山・じょうべのま遺跡

1 所在地　富山県下新川郡入善町（にゅうぜんまち）田中
2 調査期間　一九六〇年（昭35）六月～一九八四年九月
3 発掘機関　入善町教育委員会・富山県教育委員会
4 調査担当者　舟崎久雄・岸本雅敏ほか
5 遺跡の種類　荘家跡
6 遺跡の時代　平安～鎌倉時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

じょうべのま遺跡は黒部川によって形成された典型的な扇状地の先端部に位置し、眼前に日本海がひろがる。黒部川扇状地の海岸線のうち黒部川河口から東部は浸食が特に激しく、汀線の後退は近年加速度的に進行しているが、じょうべのま遺跡付近での約一〇〇〇年前の汀線は、現在より約三五〇m沖合いにあったと推定されている。圃場整備により遺跡付近の景観は一変したが、かつては杉沢とよばれる湿地性の樹林帯がその南にのびていた。

（三日市・泊）

当遺跡の発見は一九四一年に遡るが、圃場整備を契機として一九六〇年から八次にわたって発掘調査が実施された。

調査の結果、A・B地区からは六期（A～E期およびA期以前）にわたる二一棟の掘立柱建物が検出された。その配置は南面する東西棟の主屋とその前面の中庭をはさんで東西に配置された脇屋・付属建物からなり、全体としてコの字形をなす。建物の中にはB期の東「脇屋」SB〇一〇のように桁行一〇間、梁間三間の長大な建物もある（あるいはB期以後、主屋がこの棟に移るのかもしれない）。建物の存続期間は柱穴出土の土器などから九世紀初期（一部、八世紀末に遡るかもしれない）から一〇世紀初期の約一世紀間と推定されている。建物群の東側には幅約三〇mの旧河道SD〇四九が確認されており、建物群存続時期の遺物が多数出土している。一方、この旧河道の東側では一二～一三世紀のものと推定される建物群が検出されている。

出土遺物には、平安前期に位置づけられる土器類として、土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器、木器類として曲物・木皿・糸巻・箆形木器・ハケ柄などがある。特徴的な遺物としては、製塩土器・土錘・風字硯が出土していることが注目される。中世の遺物としては瀬戸・珠洲焼、中国製青白磁、朝鮮製施釉陶器などが

出土している。

木簡・墨書土器は、第三次（一九七〇年）～第五次（一九七四年）の調査で、平安前期建物群の柱穴などから出土した。このうち墨書土器は「西庄」と記すものが多数出土し、「寺」と記すものとともに遺構の性格を示すものとして注目されている。最近、石川県上荒屋遺跡から荘家跡とみられる遺構が検出され、木簡・墨書土器が出土したが、その九世紀段階の墨書の中には「東庄」「西庄」「南庄」「北庄」などがみられ（「石川・上荒屋遺跡」『木簡研究』一三）、〈方位＋庄〉記載が九世紀にまで遡ることが確認された。なお、じょうべのま遺跡では、ほかに、「田中」「少黒万呂」「□〔部カ〕」「□〔屯カ〕」「□〔東カ〕」などの墨書土器もある。

遺跡の性格としては、官衙風のコの字形の建物配置をほぼ受け継いで建て替えられていることや、墨書土器・木簡の記載内容などから荘家跡であると考えられる。文献上の荘園への比定では、東大寺領丈部荘説、同丈部西荘説、西大寺領佐味荘説、同佐味西荘説などが出されている。また、東に接する中世の遺構については、東大寺領入善荘にあてる説が出されている。

なお当遺跡は一九七九年に国史跡に指定され、現在史跡公園に整備されている。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「□□〔山継カ〕」　178×16×3.5　051

(2)　・□大水可進上□
　　・月十九□〔日カ〕　97×16×5　065

(3)　丁人　80×15×4　065

(4)　「□□益□□□　一楽乙□□　(203)×(10)×12　019

(5)　・「□□□〔連カ〕上白米五斗」
　　・「三月十四日　」　138×23×8　051

(6)　・「丈部吉椎丸上白米五斗」
　　・「十月七日　」　155×13×3　033

(1)は建物ＳＢ〇一八（Ｄ期主屋）の柱穴から出土したもので、上端は圭頭状で下端をとがらせており、完形である。(2)は建物ＳＢ〇一一（Ａ期主屋）の柱穴から出土したもので、使用済み木簡を用途不明木製品に二次的に加工したものであろう。(3)は表採品。(2)と(3)は材質・書風からみて、もと同一の木簡をのちに二片にして同じ用途のために二次的に加工したものと推定される。(4)は遺物整理中に発見したものである。分厚い檜材で、上端および左側は原面。原型は短

冊型であろう。(5)(6)は柱穴とはならない小穴から出土した。(5)は裏面の腐蝕が甚だしい。(6)は四面調整で完形。この二点は同じ性質の木簡であり、このように「人名＋上白（黒）米＋数量」の記載を有する木簡は、先述した石川県上荒屋遺跡からも出土しており、ほぼ同時期の荘家遺跡出土の木簡として比較検討されねばならない。

9　関係文献

富山県教育委員会『富山県埋蔵文化財調査報告』Ⅲ（一九七四年）
入善町教育委員会『入善町じょうべのま遺跡発掘調査概要』(3)（一九七五年）
藤井一二「国指定史跡〝じょうべのま遺跡〟と寺領荘園」（『日本海地域史研究』第八輯　一九八八年）

（櫛木謙周）

木簡研究第一三号

笹山　晴生

巻頭言
一九九〇年出土の木簡
概要　平城京跡左京三条三坊十二坪　東大寺旧境内（三社池）　藤原宮跡　藤原京跡右京七条二坊　山田道跡　山田寺跡　長岡京跡
今里城跡　鳥羽離宮跡　壬生寺境内遺跡　里遺跡　大坂城跡　住友銅吹所跡　山之内遺跡　勝山遺跡　新金岡更池遺跡　豊嶋郡条里遺跡五反島遺跡　上小名田遺跡　吉田南遺跡　明石城武家屋敷跡　今宿丁田遺跡　袴狭遺跡　伊賀国府推定地　瀬名遺跡　忍城跡　市原条里制遺跡　鉢形地区条里遺跡　石田三宅遺跡　斗西遺跡　一乗谷朝倉氏遺跡　浄水寺跡　上荒屋遺跡　田中遺跡　八幡林遺跡　緒立C遺跡　的場遺跡　荒田目条里制遺構　柳之御所跡　矢野遺跡　岡山城二之丸跡　草戸千軒町遺跡　長登銅山跡　東山崎・水田遺跡
鴻臚館跡　大宰府跡　観世音寺跡　多田遺跡　上高橋高田遺跡
一九七七年以前出土の木簡（一三）
飛鳥京跡　県立明日香養護学校遺跡　大坂城跡
下曽我遺跡と出土木簡　鈴木　靖民
香川県長福寺出土の木簡　館野　和己
「二条大路木簡」と古代の食料品貢進制度　樋口　知志
中国簡牘学国際学術研討会参加記　佐藤　信
彙報

頒価　四三〇〇円　〒五〇〇円